よく遊び　じっくり学び　正しく選ぶ　子

緑小だより　６月号

令和７年５月３０日（金）

茅ヶ崎市立緑が浜小学校
校　長　菅　野　康　一

【多くの目で子どもを見る②】

５月の週末が４週連続で雨でした。梅雨入り前の不安定な天候が影響している可能性があるとのこと。祝日が１日もない“律儀な６月！”に向けて、体調には十分にお気をつけください。

登校する子どもちに声をかけてくださる見守り隊の方々をはじめとして、緑が浜小学区は、本当に多くの目で子どもを見守っていただける環境があることに改めて感謝申し上げます。そして、雨にも疲れにも負けず通学路を歩いて来る子どもたちを見ると、本当に元気をもらえます！

━・━・━・━・━・━・

さて、今回は【***多くの目で子どもを見る②***】と題し、昨年度より神奈川県より指定を受けて取り組んでいる事業の「教科担任制」アンケートを通しての現状をご報告いたします。今年度は、3,4,5,6 年生で学年内交換授業を基本に取り組んでいます。

※アンケートは年２回実施予定です。
- ①当てはまる
- ②どちらかと言えば当てはまる
- ③どちらかといえば当てはまらない
- ④当てはまらない

現状報告については、教員・児童とも5,6 年（高学年）と 3,4 年（中学年）に分けてご報告いたします。

【5,6 年教員用アンケートより】

①「組織的な指導力・対応力の向上」につながっている
→①42.9%②57.1%③④0%

②「多面的な児童理解」につながっている
→①71.4%②28.6%③④0%

③「授業の質の向上」につながっている
→①14.3%②71.4%③14.3%④0%

④「小中の円滑な接続」につながっている
→①0%②28.6%③57.1%④14.3%

⑤「教員の負担軽減」につながっている
→①0%②71.4%③28.6%④0%

※① ②に関しては、多くの目で児童を見ながら、児童の情報共有をして対応できるメリットが出てきています。昨年度から継続していることで、多面的な児童理解も更に深まってきています。

③ ④⑤に関しては、学年で教科を分担して担当し、一つの教科を集中して研究して授業の質を高め、専門性を深めていくことで、負担感も軽減されていくのではと思います。小中の円滑な接続については、今後の大きな課題として取り組んでいくべき部分です。

【5,6 年児童用アンケートより】

① 「いろいろな先生がわたしにかかわってくれる」
→①62.3%②28.7%③4.9%④4.1%

❷「先生方は話しかけやすい」
→①53.3%②36.1%③6.6%④4.0%
❸「授業がわかりやすい」
→①67.2%②25.4%③3.3%④4.1%
❹ 「学校が楽しい」
→①68.9%②22.0%③2.5%④6.6%
※❶ ❷に関しては、小学校は基本的に担任の先生がほとんどの教科を担当し、専科の先生がいくつかの教科を担当することが多いので、他学年他学級の担任の先生が教科を担当することはあまりありません。中学校の教科担任制の前倒しが目的と言う事ではなく、学校としてのチーム力として多くの目で見ていくことが大きな目的ですから、緑が浜小の強みとなるように継続していきます。

❸に関しては、教員用アンケート❸の「授業の質の向上につながっている」意識が高まってくることで、それがダイレクトに反映される項目です。学校では９割以上が授業の時間ですから、授業が分かりやすい・楽しい、授業の中で自分が認められる場面がある、友だちのよいところも見つけられることで、❹の「学校が楽しい」ことにつながります。こちらは、年に３回実施する生活アンケートも含めて、子どもをしっかり把握していきたいと思います。

━・━・━・━・━・━・

【３、４年教員用アンケートより】
❶「組織的な指導力・対応力の向上」につながっている
→①50.0%②50.0%③④0%
❷「多面的な児童理解」につながっている
→①50.0%②50.0%③④0%
❸「授業の質の向上」につながっている
→①50.0%②50.0%③④0%
❹「小中の円滑な接続」につながっている
→①0%②75.0%③25.0%④0%
❺「教員の負担軽減」につながっている
→①50.0%②25.0%③25.0%④0%

【３、４年児童用アンケートより】
❶「いろいろな先生がわたしにかかわってくれる」
→①52.0%②33.5%③9.4%④5.1%
❷「先生方は話しかけやすい」
→①63.7%②25.0%③7.2%④4.1%
❸「授業がわかりやすい」
→①62.5%②29.3%③2.0%④6.2%
❹「学校が楽しい」
→①70.8%②19.9%③6.3%④3.0%

※児童❶ に関しては、専科教員が多い高学年に比べて①が少ないですが、３、４年生になって初めての教科担任ということもあり、今後は肯定的な回答が上がっていくと期待されます。

児童❷に関しては、高学年より①が多いです。「先生は話しかけやすい」と子どもたちが思ってくれるような、授業づくり、学級・学年経営を心掛けていく一つの指標となる項目ですので、学校全体で取り組むべき大きな項目です。

児童❸ ❹ に関しては、高学年とほぼ同様で、今後の授業改善や、一人ひとりへの丁寧な対応によって、肯定的な回答が上がるよう取り組んでいきます。